

2021年度 恵の実「ホップくん」  
事業報告書

1、理念

ひとり一人の意欲を大切に、たくましく、かしこく、やさしく育つことを願いながら、発達の弱さをもつ子どもも含め、0歳から学童、大人まで共に育ち合う共同の子育てをめざします。

2、保育目標

- (ア) 「たべる」「ねる」「あそぶ」「はたらく」ことを通して、子どもの内なる自然を育てる。
- (イ) 恵の実保育園と連携した交流保育の中で、仲間と共に様々な体験をしながら、子ども同士の関わり合い、育ち合いを大切にする。
- (ウ) どんなに障がいが高くとも、人間の育つ道筋は同じである。一人一人の発達に合わせて、ゆっくり丁寧に積み上げていく。
- (エ) 大人が安心して子育てに向かえるよう、親同士のつながりを作り「子育て」と「親育ち」を学んでいけるようサポートする。

3、2021年度実績

- ・登録者人数 13名 (毎日利用の児童 10名/他の事業所や保育園との併用の児童 3名)
- ・定員 10名
- ・利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日	20	18	22	21	22	20
延べ利用者数	200	175	213	194	213	214
日平均	10	9.7	9.7	9.2	9.7	10.7

10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
22	22	21	19	18	24	20.8
236	221	217	195	182	214	206.6
10.7	10.0	10.3	10.3	10.1	9.1	10.0

4、児童の処遇

(1) 健康管理

アセスメントを行い、子どもの健康状態、発達の様子、生活リズム、家庭環境、保護者の精神状態等を確認・把握し、その上で支援の方向性の検討を行っている。

毎日利用の児童は月に1回身長体重測定を実施し健康管理を行った。

<新型コロナ対策関連>

朝の検温やその日の健康状態の把握など、家庭との情報共有を意識して対応した。療育活動では、子どもたちがマスクを着用することは難しい為、外での活動を多くし、室内活動の際は窓を開けて換気を十分に行い、児童が手洗い消毒をしっかりと行えるよう介助するなど、感染症対策を意識しながら療育を行ってきた。また、風邪症状がある児童については、早めに自宅療養をお願いすること

で感染の拡大防止に努めてきた。

他の保育園や事業所を併用している児童については、併用先の事業所等の感染状況やホップくんでの感染状況を見て利用児の受け入れ判断をし、利用児が困らないよう利用先の調整を行った。

ホップくんでは、利用者2名と職員1名のコロナ陽性が確認され、保育園と共に1月31日～2月2日まで休所をすることとなった。他にも、家族がコロナ陽性者となり、利用者2名が濃厚接触者として自宅待機となった。コロナ陽性の方を除き、自宅待機をされている利用者には電話対応での支援を行い、子どもや家族の様子を確認するとともに、家庭での過ごし方のアドバイスをしたり、保護者の不安などを聴くことを大事にした。

## (2) 療育内容

アセスメントを基に個々の課題に応じて個別支援計画を作成し、職員間で個々の課題を共有しながら療育を行ってきた。6か月に1度は個別面談を行い、事業所での活動の様子を写真や映像を使って分かりやすく伝えるよう心掛けている。

ダウン症児や肢体に障がいを伴う児童が半数近くおり、「食べる」ことに課題がある児童の割合が多い。給食職員と情報共有や連携をし、個々に合わせて「食べる力」を伸ばしていけるよう対応している。

理学療法士の専門性を活かして、個別支援として個々に合わせた身体への取り組みなどを丁寧に行ってきた。

個々の様子に合わせて交流する保育園のクラスを決め、クラスの仲間と生活や遊びを共にし、大人や仲間など人とのつながりの中で個々の力を伸ばしていけるよう療育を行ってきた。個々の様子や課題に応じて職員が配慮をしながら、季節の行事活動や事業所外活動にも参加をしてきた。

体験活動については、事前に個々のねらいと配慮点等を明確にした活動計画を立て、それに基づき活動を行っている。また、事業所外で行う体験活動では、ねらいや配慮点等を保護者に説明し、書面にて同意を得てから活動を行ってきた。バスを使用する際は、マスクの着用や手指の消毒、バス内の換気など感染症対策を行っている。

### <体験活動>

5歳児	年長交流、牧場に牛糞を取りに行き畑づくり、鯉つかみ、魚釣り、水族館、豊橋動物園、観劇、乗馬体験、卒園旅行
3～5歳児	畑作り、野菜を収穫しての調理、鯉のぼりを見に行く、梅や枇杷採り、いちご狩り、トウモロコシ狩り、ホテルを見に行く、山登り、動物との触れ合い、秋の散策、栗拾い、草滑り、芋ほり、大イチョウ、大根収穫、雪遊び、人参収穫、草滑り、ふるさと公園

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、行事については集団的密集を避ける工夫をしながら、法人内の他の事業所と共に、できるだけ実施できるよう取り組んできた。

年長児3名が3月に卒所を迎えた。

## (3) 安全管理

火災、水害・土砂災害、地震を想定した避難訓練を月に1回程度行った。実働に合わせて、他事業所と協力し合って災害対策ができるよう、法人としての消防組織を設置している。避難訓練の後には反省を行い、災害の際の児童の把握の仕方や児童への配慮点の確認、職員同士の連携の仕方等を確認

しあった。歩行が十分に確立していない児童も多いので、いかに職員同士が声を掛け合い、連携をして避難させるかが重要である。

また、冬場の避難訓練では、避難時の寒さ対策が必要なことが分かり（防寒シートは準備されているがホップくん利用児には使いにくい）、避難袋に一人一人の防寒セットを用意するなど、災害時に必要なものについて見直しを行った。

## 5、職員の処遇

### （1）職員会議

職員会議を定期的に行い、児童の発達の様子や療育内容等を検討し合う場を保障してきた。職員が問題を抱え込まず、職員間で共有し考え合うことで、療育の方向性を見出していくことを心掛けてきた。また、高クラス会議や低クラス会議などにも職員が積極的に参加し、保育園職員との連携がしっかりとれることが、統合保育における職員と子どもたちの集団作りにつながっている。

### （2）研修

#### 事業所内研修

- ・権利擁護と虐待防止の学習会
- ・水・山の安全学習会
- ・普通救命講習
- ・子どもの描画についての講演会（動画配信）
- ・東海地区職員学習会

#### 外部研修

- ・自立支援協議会人材育成プロジェクトによる研修会
- ・愛着障害に関する研修
- ・自閉所スペクトラム症と脳の働き
- ・ボイタ法に基づく正常運動発達講習会
- ・児童発達支援管理責任者研修
- ・児童発達支援管理責任者更新研修
- ・苦情・クレーム対応研修
- ・虐待防止委員会の設置と活用

## 6、施設管理

### （1）設備、備品関係

児童の身体に合わせた椅子や補助具、また児童に合わせた歩行器を使用することで、児童の生活のしやすさや遊びの広がりにつなげている。そうした補助具が増え、保管場所についての検討が今後の課題である。

担当職員により、季節に合わせたホップ棟内の装飾が施され、児童が心地よい空間で過ごすことができる。

必要に応じて段差を積極的に利用し、子どもの危機管理能力の向上につなげており、すべてをバリアフリーにはしていない。しかし、バギー等の補助具を利用する児童もおり、バリアフリーを必要とする部分については見直しを行い工夫している（スロープの使いやすさ、トイレの工夫など）。

## 7、保護者に向けて

やりとりノートを活用し保護者と子どもの様子を情報共有するとともに、送迎時にはできるだけ保護者と話をする時間を作り、保護者との信頼関係を築いている。不安を抱えている保護者の方には、事業所での児童の様子を映像にとって保護者に見せるなど、より丁寧な支援を心掛けている。また、不安を抱えている保護者の様子を職員間で共有し、職員みんなで気にかけていけるよう連携をとってきた。必要に応じて母子（父子）通園や家庭訪問を行い、家庭支援を行っている。

家庭訪問・・・家庭での食事支援。

家庭での遊び方のアドバイス。

麻痺のある児童への家庭での生活の工夫についての支援。

1か月に1回程度、茶話会を実施した。ステップくんの保護者にもアドバイザーとして参加してもらうことで、先輩保護者の子育ての経験談を聞く機会となり、保護者の不安軽減や子育ての見通しにつながっている。また、保護者同士のつながりができ、休日に保護者同士声を掛け合い集まるなど、孤独な子育てにならない土台づくりにもなっている。

## 8、苦情受付

法人として意見箱を設置。苦情報告は特になし。

下半期、利用者アンケートと事業所自己評価を実施。事業所自己評価については、結果をホームページに掲載して公表した。

## 9、虐待対策

- ・支援者による虐待対策として、担当制になりすぎないように、複数の職員で子どもの様子を確認し対応にあたること、児発管及び管理者が客観的立場から支援方法について確認し指導をすること、職員同士が相談し合える環境を作っておくことを心掛けた。
- ・気になる様子があれば職員間で情報共有をし、保護者の悩みに迅速に対応していけるよう心掛けた。母親が不安定になりやすいケースについては、父親との情報共有や連携が取れるよう対応している。
- ・虐待案件はなかった。

## 10、ヒヤリハット

6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童が一人で2階にあがってしまった。2階に上がる階段前の扉の鍵が壊れており、子どもが一人通れる隙間があいてしまっていたので、鍵を早急に取り換えた</li><li>・児童のみでプールに入ってしまうことがあった。プール横にろ過機があり、そのろ過機を登ってプールに入ってしまったので、ろ過機や階段など、職員がプールの見守りができない時にはプール近くに登れるようなものを置かないよう周知。</li><li>・児童がスモモを食べていて、スモモの種を喉に詰まらせた。種のある果物を食べた経験があまりない状態で、スモモを種ごと食べてしまった。大きな種のある実を食べる時は、食べ方を伝えると共に、安全に食べているか職員が必ず見守るように周知。</li></ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"><li>・置いてあったポップくんの歩行器を園児さんが速いスピードで押して遊んでおり、他の園児さんとぶつかり転倒した。歩行器の置く場所を検討し直し、園児さんにも歩行器は大事なものであると伝えた。</li></ul>

11月	・行事で児童を託児していた際、職員が他の児童に気を取られている間に託児室を抜け出して児童を見失うことがあった。託児の際に必要な職員体制の見直しを行った。
12月	・歩行器を利用している児童が、職員が目を離した間にバランスを崩して転倒した。歩行器を使用する際は、歩行器を使用する場所の安全性を確認するとともに、職員は目を離さないこと、目を離す状況になる際は、職員で声を掛け合うことを確認し合った。 ・歩行器を使用している児童が、緩い下り坂で歩行器のストッパーを自分で外してしまい、短い距離ではあるが歩行器が坂を下ってしまった。今まで児童がストッパーを自分で外すようなことがなかったため、職員もストッパーをしていれば大丈夫という安心感があった。日々成長していく児童の様子に合わせて、危機管理についての意識を変えていかななくてはならないことを確認し、児童本人にも、ストッパーを外す危険性を伝えた。
1月	・児童が遊んでいた際、立てかけてあった板が強風で倒れ、児童の身体の上に板が倒れてきた。遊び場所に危険なものがないか、確認する必要があるがあった。その日は強風でもあり、そうした際も物の置き方にも注意が必要であった。
3月	・お弁当を食べている際、お弁当に入っていた鶏肉を喉につまらせた。お弁当に入れる鶏肉の形状について保護者と確認するとともに、ひとり一人入っている具材が違う弁当の日は、いつも以上に児童の食べる様子に注意を払う必要性を職員間で確認し合った。

ヒヤリハットについては、職員間で周知するとともに、職員会議でも再度周知を行った。

麻痺など肢体不自由の児童が歩行器等の補助具を使用しており、その補助具に関するヒヤリハットが増えている。また、毎年誤嚥に関するヒヤリハットも起きている。年度初めには1年間のヒヤリハットを見直し、職員間で対策等を確認し合う。

#### <安全対策に関する学習会>

救命救急法（初級）

他の保育園等での事故の報告を共有し、事業所での安全対策の見直し（他園の死亡事故）

水、山の安全学習会

感染症対策（嘔吐処理、RSウイルス対策について）

誤嚥対処法（気道異物除去）

熱中症、マムシ、蜂等について

#### 1 1、地域社会との連携

- ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、豊川市内の児童発達支援事業所共有会議の開催がなくなり、情報共有の場が少なくなっている。共有会議は行われていないが、必要な情報は、事業所同士がメールでやりとりを行っている。また、豊川市内の児童発達支援事業所の情報を載せた冊子を共同で作成し、福祉課等に設置を行った。
- ・利用者、職員共に、コロナの陽性が判明したり、濃厚接触者と特定された際には、愛知県や豊川市に届け出をするとともに、東三河ほいっぷネットワークに状況報告をして、他事業所との情報共有を行ってきた。
  - ・岡崎女子短期大学の学生4名の1日実習（体験）の受け入れを行った。
  - ・新型コロナウイルス感染症対策もあり、法人としての夏祭り行事で地域の方を招待することができなかった。

## 12、2021年度の状況と分析

・今年度は、毎日利用する児童が10名の登録となり、昨年度より安定した利用実績となっている。また、今年度より報酬改定が行われ、単位が上がった事、また経験年数の長い保育士が勤務していることで加算が追加され、利用者一人が1日利用するのに支払われる単位が全体的に上がったこともあって、収入の増加につながった。事業所内で、新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認され、事業所が3日間休所をしたり、感染症を心配されて長期間お休みをされる児童もいたが、電話での代替支援を行ったことで利用者数の減少にはならなかった。

- ・保育士1名が児童発達支援管理責任者研修を修了することができた。
- ・2月に実施した事業所自己評価を見ると、理学療法士の専門性を活かした支援や、家庭訪問や母子通園などの保護者支援を丁寧に行ったことで、保護者の方の安心につながっている様子があった。一方、衛生面や安全面についてのご意見が数件あり、改善すべきところは改善を図りながら、ホップくんの療育方針として大事にしていることを保護者と丁寧に共有していく必要性もある。
- ・肢体不自由の児童が2名おり、歩行器や立位（座位）保持装置などの補助具を使用している。児童の成長と共に動きが活発になり、補助具に関連したヒヤリハットが増えている。安全に配慮しながら補助具を有効に活用していけるよう、補助具の使用の仕方について定期的に見直しを行っていく。
- ・ヒヤリハットについては、毎年誤嚥につながるヒヤリハットがある。「食べる」ことに課題のある児童が多いため、保護者と共に定期的に食事に関する配慮点を確認し合い、また異物除去の実習を実施していくことが必要である。

## 13、次年度の方針、課題

- ・今年度4名（毎日利用2名、週1日利用2名）の児童が卒園し、次年度は新たに3名の児童が利用開始となる（3名とも毎日利用）。そのため、次年度は今年度よりも1日の利用者数が増える見込みである。新規利用者のうち1名はマンツーマン対応が必要なお子さんであり、その分職員体制を充実させて保育にあたる。一クラスに対して複数担任での職員体制となるため、職員間での連携が課題となる。
- ・ホップくんでは、身体に課題を抱える児童が多いため、今後も理学療法士の専門性を活かし、身体づくりに対して丁寧な支援を行っていく。
- ・今年度丁寧に行ってきた母子（父子）通園や家庭訪問などの家庭支援を引き続き大事にし、保護者が子育てに希望を持てるよう支援する。また、保護者同士の交流を深めるため、茶話会を充実させる（家族交流としての茶話会、父親を対象とした茶話会を行う）。
- ・虐待防止対策委員会を設置し、虐待防止についてのマニュアルの作成、職員への研修、その他虐待に対する対策等について検討し合っていく。
- ・管理者の交代に伴う業務分担の整理を行うとともに、福祉事業として整備が必要なものを見直し、ステップくと連携して法人としての福祉分野の充実を図っていく